

シリーズ

人権尊重スキルを磨く
「会議のファシリテーション講座」③



会議で育む「チームビルド」

ちよんせいこさん(人まちファシリテーション工房)

メンバーの力が活かされるチームビルド

チームビルドという言葉をご存知でしょうか。職場や自治会、ボランティアサークルなど、人が集まる場所には必ず目的があります。ファシリテーターは、この目的達成のために、構成員一人ひとりの個性や力を活かし、協力しあうプロセスを描いてゆきます。

共に知恵を絞りあい、計画を練り、実行するための組織を育む。

困難な課題を前にした時も、決してひとりではない。チームワークに支えられた仲間と一緒に行動することは、私達に大きな勇気を与えてくれます。もちろん無駄な動きも省かれて、目的達成にも近道で効率的。組織で動く時には、チームビルドが不可欠です。

その一例を紹介します。塩尻文男校長先生の熱いコールに誘われて、5月より東大阪市立金岡中学校1年生の人間関係トレーニングに関わっています。まず、私が最初に行ったのは、1年生の学年会議でした。中学校の現場は本当に忙しく、先生方が揃うのにも困難が伴いますが、節目、節目の会議を大切にしてきたことが、その後のチームビルドに貢献しているなあと感じます。

「つぶやきをひらう」会議

基本的な会議の進行方法は以下の通りです。

- ① まずは会議室にホワイトボードを持ち込みます。経験則では、ホワイトボードのない場での生産的な議論はかなり困難です。全員がホワイトボードを見ながら会議を進めてゆきます。
- ② ファシリテーターは「つぶやきをひらう」役割があります。一人ひとりの背中をポンと押すように意見を促し、好意的関心の態度で聴いて、ホワイトボードに書いて視覚化します。大きな声の発言だけでなく、ポソっとつぶやいた言葉も拾い上げて書く。こうすることで、意見を視覚化しながら蓄積します。
- ③ ポイントがあります。順番に参加者の意見を聴いてゆきますが、書く時には、ホワイトボードの真ん中から書き始め、あちこちに意見を書き散らかしてゆきます。意見がたくさん溜まってくると、みんなの意見がゴチャマゼで誰の意見がわからなくなります。こうして意見の帰属を外しながら、固定的な人間関係を超えて、ゴールに貢献する意見を選ぶ環境を整えます。

ここまでの作業を発散と言います。できるだけ無責任に、思うこと、感じていることを素直に出し合います。ファシリテーターは否定的な意見もまずは書いて受け止めましょう。なかなか人には言いにくい失敗体験や「ヒヤリ、ハット」の経験も、ゴールをめざす時には宝になります。好意的な関心の態度で受けとめられる「安心安全な環境」を作りながら、全員参加で情報の共有を進めます。

- ④ 発散の次は収束です。ホワイトボードに書かれた情報の中から、目的達成に必要な軸を立て、議論を構造化します。収束

軸は目的に応じてさまざまですが、時系列や優先順位、実現可能性、課題別など。情報を切り分けて、活用できるプログラムづくりを進めます。発散後に「めざすゴール」を出し合うだけでも、随分と収束の方向性が見えてきます。

まずは少人数の打合せで試してください。ホワイトボードの活用方法はたくさんありますが、まずはこれが基本だと思います。

チームワークを育む会議

金岡中学校の最初の会議では、まず、生徒集団の見立てを行いました。人間関係トレーニングをするにあたって、子ども達の状態はどうなのか。見立てを間違ると「処方」も間違っているので、まずは先生方一人ひとりが、日ごろの子ども達の様子を出し合い、ファシリテーターが書き散らかし、蓄積します。この時の発散は実に90分を費やしました。

しかし十分に意見を発散した後の収束は、とても早いものです。たくさんの文字の中から、みんなが一致できる「めざす子ども達の姿」として、「やわらかい集団づくり」が浮かびあがりました。誰が決めたのでもない。みんなで一一致した目標です。あとはこの目標に向かって何をすれば良いのか、具体的なプログラムを考えてゆきます。「金中文殊」と呼ばれる生徒の少人数グループの効果的な活用も目標の1つになりました。

11月には、人間関係トレーニングの公開授業を実施しました。前日の職員室では、打合せ会議が終わった後も、各クラスの担任、副担任がプログラムの細部を詰めています。学年代表の安藤浩先生は、「一方的に説明をするだけでなく、みんなが意見を出し合う会議をすることで、今まで以上に会議の内容が一人ひとりのものになっています。プラス、会議の後には、各クラスの実態や教師の個性を活かした工夫について、担任や副担任が相談しながら綿密な打合せを行っている。その様子は感動ものでした」と語っています。

公開授業が終わった後の職員室では、自然と先生方が集まって、学年会議さながらにふりかえり会が行われる。その先生方の雰囲気がとても「やわらかい」ことに、私自身も嬉しくなりました。いい形でチームビルドが進んでいます。

いい会議があれば、いいチームが作られる。結果、子ども達により良い教育プログラムが提供される。この循環が大切なんですよね。

参考文献:「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座～17日で学ぶスキルとマインド」(著者:ちよんせいこ/発行:解放出版社)